

## 叶嶽神社と叶嶽

叶嶽神社と叶嶽については、ウェブサイトの「叶嶽神社のいわれ」等に説明されているが、その説明は古文書からの引用が多いので、ここではそれを紹介する。

貝原益軒編・伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』によれば、「叶嶽はむかし天勾山といい、怡土郡と早良郡との境は峰分かれている山頂に地蔵堂があるが、怡土郡上原村に属している。上原村の吉住因幡が山頂に地蔵堂を立てている。その後火災がおき、堂が焼け、大石も焼き払われて谷に落ちている。その址に再び堂を建てて石仏を安置した。天正年中（1573～1591年）高祖城主の原田了榮がこの堂を改造し、田地二反余寄付している。今も上原村に地蔵田という字がある。黒田忠之公が1631（寛永8）年に改作を与えている。因幡八世の孫、今も上原村にいて、僧ではないが、この堂を守っている。怡土郡上原（現在の叶嶽宮前）よりもの早良郡野方（現在の生松中央公園）の方が険しい。」との記述がある。

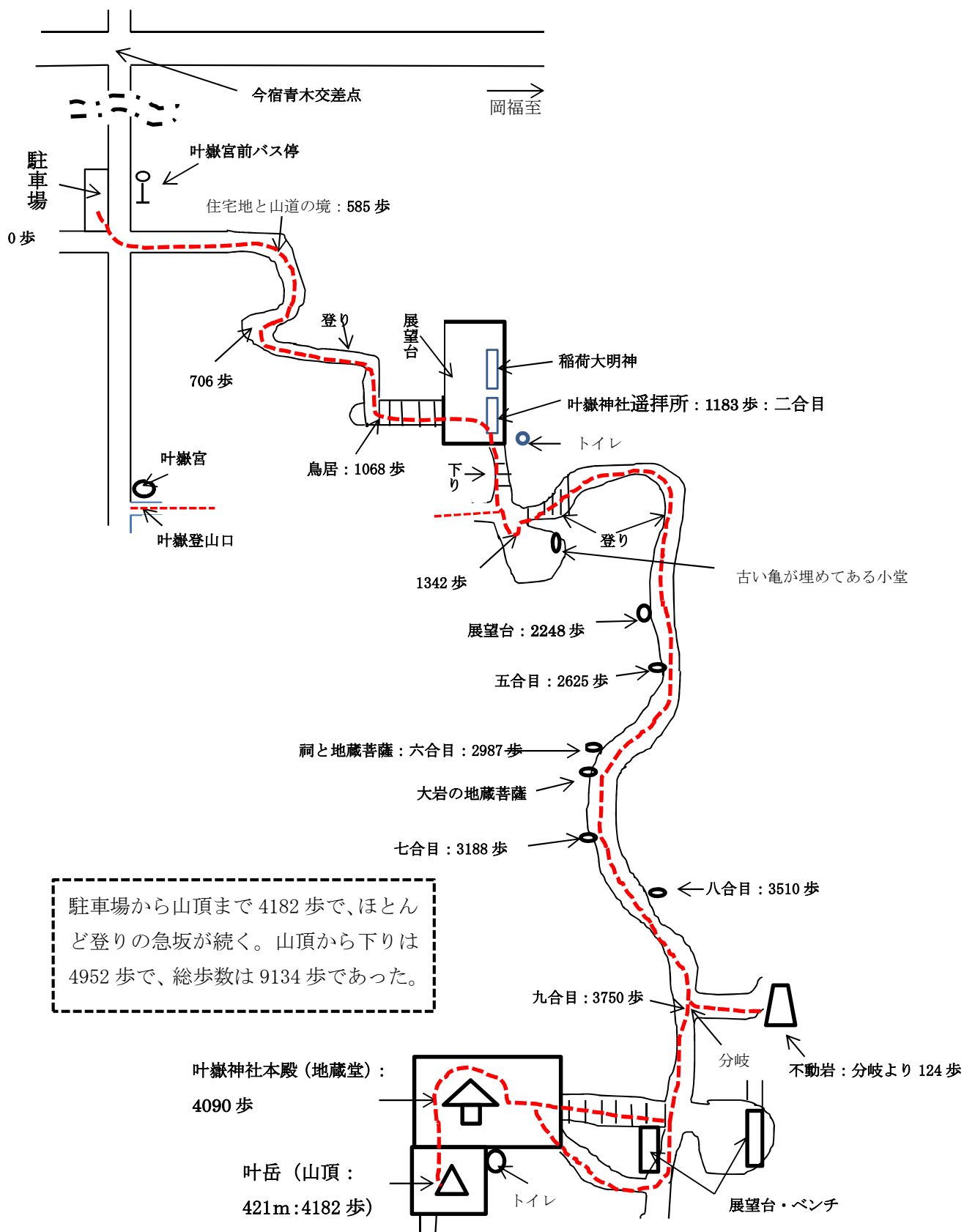
加藤一純・鷹取周成共著・川添昭二校訂『筑前國續風土記付録（下巻）』によれば、「上原村から地蔵堂まで約18町ある。昔から鳥居があるが地蔵佛である。神功皇后を祭っている。吉住因幡の遠孫が里民祭をおこなっている。」の記述がある。叶嶽神社は地蔵を祀りながら神社名となっているという神仏混淆（神仏習合）の名残である。一般的に、神仏混淆は日本の神と仏教の仏菩薩は本来同体であるとして、両者を同じ場所に祀り、信仰することである。叶嶽神社遥拝所で般若心経を唱えていたご夫婦がおられました。

福岡県史近代史料編『福岡県地理全誌（六）』によれば、「叶嶽は村の西にあり、南は羽根戸村に接し、怡土郡上原村に接したところにある。山麓大音より山頂までは17町で険しい山道である。また、怡土郡上原村の箇所には早良郡野方村とその近郊までの距離等」の記述がある。

### 参考文献

- 貝原益軒編・伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版，2001年6月．488頁．  
加藤一純・鷹取周成共著・川添昭二校訂『筑前國續風土記付録（下巻）』文献出版，1978年4月．8頁．  
西日本文化協会編纂・福岡県史近代史料編『福岡県地理全誌（六）』福岡県，1995年3月．179～180頁，572頁．

叶岳（標高 341m：福岡市西区今宿上ノ原）





遥拝所の入口の鳥居：1068 歩



稲荷大明神・叶嶽神社遥拝所：二合目：  
1183 歩



叶嶽神社遥拝所からの展望



叶嶽神社遥拝所からの展望



遥拝所から階段で少し下った場所：山頂  
への分岐：1342 歩



山頂への分岐から鳥居がある石段を  
登る



登りの階段



尾根道



展望台：2248 歩



展望台より糸島半島方面遠望



五合目：2625 歩



六合目：祠：2987 歩



六合目近く：地藏菩薩：この下に小さな地像菩薩がある



山頂はこちらの分岐；どちらも同じ



登山道



七合目：3188 歩



能古見台：七合目付近



能古見台からの遠望



八合目：3510 歩



八合目付近の登山道



九合目：3750 歩



山頂への登山道



叶嶽神社本殿：4090 歩



叶嶽神社説明板



叶嶽神社本殿内



叶嶽（叶岳）山頂：421m：4182歩



山頂にある案内板



山頂にある道標



山頂からの南側の遠望



山頂下の展望台から都市高速・博多湾方面の遠望



山頂下の展望台から都市高速・博多湾  
方面の遠望



九合目の下にある分岐:124歩にある不  
動岩と不動堂



不動岩：岩に不動明王？の線画が描  
かれている



不動岩